

# 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

|  |   |            |
|--|---|------------|
| 科目名  | 心理学研究法  |            |
| 担当教員の実務経験  | 臨床心理士として精神科病院等で実務経験有  |            |
| 対象学生   | 保育・福祉・心理学科 心理コース 3年   |            |
| 授業時間数・単位数  | 75 コマ   | 5 単位       |
| 授業方法   | 講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [     ]   |            |
| 授業の概要  | 心理学の主要な内容とも言える感覚・知覚・学習・認知・人格・社会について、実験・調査などの実証的研究法を学ぶ。一般的に心理学の研究では何のために研究するのか研究の目的をはっきりさせ、その方法を考え、その結果を分析していく。本科目では、それらの技能と共に、データを用いた実証的な思考方法を身につけさせていくことが主要な目的である。また、結果の分析にあたっては、統計学の知識、コンピュータ活字も必要であり、その習得も併せてめざす。さらに、それらの研究法に内在する問題点も検討し、心理学における実証的研究法(量的研究及び質的研究) データを用いた実証的な思考方法、研究における倫理について理解する。 |            |
| 授業の到達目標  | データを用いた実証的な思考方法を身につけ、レポートおよび科目試験合格を目指す。   |            |
| 成績評価方法と基準  | 科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する  |            |
| 準備学習・時間外学習   |   |            |
| 使用教科書・教材・参考書   | 高橋順一、他『人間科学研究法ハンドブック』ナカニシヤ出版。   |            |
| 授業上の注意点  |   |            |
| <b>授業計画 (内容)</b>   |   | <b>コマ数</b> |
| 科学とは何か<br>「科学」とは何か、「科学的」であるために必要なことは何かを理解する。テキスト「はじめに」参照。                            | 1   |            |
| 研究とは何か<br>研究の目的や意義、研究のタイプ、研究の流れ、研究倫理について理解する。テキスト第1章、第3章、第4章参照。                      | 1   |            |
| データ収集と情報源について<br>データの種類や収集方法について学ぶ。どのようなデータを集めるためには、どのような情報源が必要になるのかを理解する。テキスト第2章参照。 | 1   |            |
| 文献調査の方法<br>実際に、自分の興味のある資料(研究論文等)を探してみる。テキスト第5章参照。                                    | 1   |            |
| サンプリングについて<br>サンプリングとは何か、どのような方法があるのかを理解する。テキストpp.19-22、p.79、pp.162-164 参照。          | 1   |            |
| 研究倫理とは何か<br>心理学における研究倫理の必要性について理解する。テキスト第4章参照。                                       | 1   |            |
| 心理尺度について<br>尺度を考えることの意味、4つの尺度と注意点、信頼性と妥当性について理解する。テキストpp.153-154 参照。                 | 1   |            |
| 観察法①<br>観察法とはどのような方法なのかを理解する。テキストpp.14-15、pp.87-98 参照。                               | 1   |            |
| 観察法②<br>実際に観察法の文献を読んで、観察法を理解する。テキストpp.98-122 参照。                                     | 1   |            |
| 面接法<br>調査的面接法について理解する。構造化面接、半構造化面接、非構造化面接の違いを理解する。テキストpp.15-16、第8章参照。                | 1   |            |
| 質問紙調査法<br>質問紙調査法の特徴、設計、データ解析について理解する。テキストp.16、第10章参照。                                | 1   |            |

|  |         |
|--|---------|
| 実験法①<br>実験法の意義、手続きについて理解する。テキストp.17、pp.171-179 参照。   | 1       |
| 実験法②<br>実験データの解析方法について、分散分析と多重比較、t-検定、 $\chi^2$ 二乗検定の意味と違いを理解する。テキストpp.179-193 参照。               | 1       |
| 実験論文の構成について①<br>心理学実験論文としての特徴はどこにあるのかに着目すること。インフォームドコンセントや研究倫理に関する記述にも着目すること。<br>テキスト第4章、第12章参照。 | 1       |
| 実験論文の構成について②<br>実験論文の実際を読んで、実験論文の構成を理解する。テキスト第13章参照。   | 1       |
| レポート作成、添削指導  | 60      |
|  | 計 75    |
|  | 授業単位数 5 |

# 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

|  |  |            |
|--|--|------------|
| 科目名  | 心理的アセスメント  |            |
| 担当教員の実務経験  | 臨床心理士として精神科病院等で実務経験有   |            |
| 対象学生   | 心理福祉学科3年   |            |
| 授業時間数・単位数  | 75 コマ  | 5 単位       |
| 授業方法   | 講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [   ]  |            |
| 授業の概要  | 事例理解のために、性格テストや知能検査など各種の心理検査かどのように役に立つのかを知り、心理的アセスメントの目的及び倫理、心理的アセスメントの観点及び展開、心理的アセスメントの方法(観察、面接及び心理検査)、適切な記録及び報告について学修し、各種の心理検査の基本となる考え方について理解を深める。 |            |
| 授業の到達目標  | 心理的アセスメントの方法(観察、面接及び心理検査) 適切な記録及び報告について学修し、レポートおよび科目試験合格を目指す。  |            |
| 成績評価方法と基準  | 科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する   |            |
| 準備学習・時間外学習   |  |            |
| 使用教科書・教材・参考書   | 渡部洋『心理検査法入門』福村出版。  |            |
| 授業上の注意点  |  |            |
| <b>授業計画 (内容)</b>   |  | <b>コマ数</b> |
| 心理検査とは 心理検査法の基礎概念<br>心理検査の定義について理解し、心理検査が誕生し発展してきた歴史について概観する。そして、その心理検査の種類と利用方法、倫理について学ぶ。                                  | 1  |            |
| 心理検査の妥当性と信頼性<br>よい心理検査の条件の1つである信頼性と妥当性について、その意味と種類について理解する。そして、心理検査の使用目的にそつた適切な心理検査の選び方について考える。                            | 1  |            |
| 検査者-被検査者関係<br>心理検査を実施する際に重要となる検査者と被検査者の関係性について学び、ラポール(信頼関係)について理解を深める。そして、心理検査の結果に影響を与えると考えられる要因についても検討する。                 | 1  |            |
| 心理検査報告書の書き方<br>心理検査の結果を被検査者に伝える時の注意点をはじめとし、心理検査施行後の留意点について理解する。また、心理検査結果を報告書にまとめる具体例についても学ぶ。                               | 1  |            |
| 質問紙法の長所と短所<br>人格検査の1つの手法である質問紙法の代表的な心理検査について知識を得、その効用と限界について学ぶ。そして、他の2つの手法である投影法・作業検査法との相違点を理解する。                          | 1  |            |
| テイラー不安検査<br>テイラー不安検査について、理論的背景、実施方法、得点の算出法、解釈の仕方や利用上の注意、適用範囲や限界などについて学ぶ。そして、検査を行う目的や検査結果の活用方法、検査結果を相手に伝える際の注意点などについても考察する。 | 1  |            |
| YG 性格検査<br>YG 性格検査について、理論的背景、実施方法、得点の算出法、解釈の仕方や利用上の注意、適用範囲や限界などについて学ぶ。そして、検査を行う目的や検査結果の活用方法、検査結果を相手に伝える際の注意点などについても考察する。   | 1  |            |
| 投影法の長所と短所<br>人格検査の1つの手法である投影法の代表的な心理検査について知識を得、その効用と限界について学ぶ。そして、他の2つの手法である質問紙法・作業検査法との相違点を理解する。                           | 1  |            |
| ロールシャッハテスト<br>ロールシャッハテストについて、理論的背景や利用上の注意、適用範囲や限界などについて学ぶ。そして、実施方法、得点の算出法、解釈の仕方について概観する。                                   | 1  |            |

|  |         |
|--|---------|
| 作業検査法の長所と短所<br>人格検査の1つの手法である作業検査法の代表的な心理検査について知識を得、その効用と限界について学ぶ。そして、他の2つの手法である質問紙法・投影法との相違点を理解する。                                 | 1       |
| 内田クレペリン検査<br>内田クレペリン検査について、理論的背景、実施方法、得点の算出法、解釈の仕方や利用上の注意、適用範囲や限界などについて学ぶ。そして、検査を行う目的や検査結果の活用方法、検査結果を相手に伝える際の注意点などについても考察する。       | 1       |
| 個別式検査法と集団式検査法の長所と短所<br>心理検査の代表的な実施方法である個別式検査と集団式検査法の相違点を理解し、それぞれの方法の長所と短所について理解する。   | 1       |
| 知能検査 ウェクスラー知能検査<br>ウェクスラー知能検査について、理論的背景、実施方法、得点の算出法、解釈の仕方や利用上の注意、適用範囲や限界などについて学ぶ。そして、検査を行う目的や検査結果の活用方法、検査結果を相手に伝える際の注意点などについて考察する。 | 1       |
| 発達検査 新版K 式発達検査<br>新版K 式発達検査について、理論的背景、実施方法、得点の算出法、解釈の仕方や利用上の注意、適用範囲や限界などについて学ぶ。そして、検査を行う目的や検査結果の活用方法、検査結果を相手に伝える際の注意点などについて考察する。   | 1       |
| VPI 職業興味検査 職業適性検査<br>VPI 職業興味検査と職業適性検査について、理論的背景、実施方法、得点の算出法、解釈の仕方や利用上の注意、適用範囲や限界などについて学ぶ。そして、各心理検査の相違点、テストバッテリーの組み方について理解する。      | 1       |
| レポート作成、添削指導  | 60      |
|  | 計 75    |
|  | 授業単位数 5 |

# 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

|   |   |    |      |
|---|---|----|------|
| 科目名   | 教育・学校心理学  |    |      |
| 担当教員の実務経験   |   |    |      |
| 対象学生  | 心理福祉学科3年  |    |      |
| 授業時間数・単位数   | 75  | コマ | 5 単位 |
| 授業方法  | 講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [     ]   |    |      |
| 授業の概要   | <p>教育心理学とは、子供を教育していく上で必要となる知識を身につけ、子供の成長を促すためのより良い教育とは何かを心理学的視点から探求する学問といえる。そのため、発達、学習、パーソナリティ、測定・評価の4つの領域について基礎知識が必要となる。本科目では、以上のような基礎的知識修得はもちろんのこと、事例の通り、それらの知識をいかに教育の実践に役立てていくのか検討し、教育現場において生じる問題及びその背景、教育現場における心理社会的課題及び必要な支援を学ぶ。併せて、現実の教育現場で起きている問題への応用を考える。</p> |    |      |
| 授業の到達目標   | 教育現場において生じる問題及びその背景、教育現場における心理社会的課題及び必要な支援を学び、レポートおよび科目試験合格を目指す。  |    |      |
| 成績評価方法と基準   | 科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する  |    |      |
| 準備学習・時間外学習  | 授業内容に係る講義に加えて、レポート添削等の演習を実施   |    |      |
| 使用教科書・教材・参考書  | 山崎史郎『教育心理学 ルック・アラウンド』ブレーン出版。  |    |      |
| 授業上の注意点   |   |    |      |
| 授業計画（内容）  |   |    | コマ数  |
| 教育心理学とは<br>教科書 pp.3-7, pp.13-17 を通読し、教育心理学の内容や意義、教育心理学で用いられる研究法などを理解すること。教師の役割を教育心理学の観点から考えてみるのもよい。                                       |   |    | 1    |
| 教育心理学のあゆみ<br>教科書 pp.7-12 を通読し、教育心理学の歴史を概観する。代表的な研究者の研究がどのような意味を持っているかを考えること。さらに詳細な研究内容や他の研究者を調べてみるのもよい。                                   |   |    | 1    |
| 子どもの発達 — 遺伝と環境、レディネスの概念—<br>教科書 pp.21-44 を通読し、代表的な発達理論、遺伝と環境のかかわり、レディネスの概念などについて理解すること。学校現場における、これらの理論の位置づけや応用について考えてみるのもよい。              |   |    | 1    |
| 知能 — 知能の概念の有効性と限界—<br>教科書 pp.47-58 を通読し、代表的な知能の理論、知能の発達、知能の規定因などについて理解すること。学校現場における知能の概念の位置づけや利用法、その限界、注意点などについて考えてみるのもよい。                |   |    | 1    |
| 性格（パーソナリティ）— 性格の概念と個人差—<br>教科書 pp.59-72 を通読し、代表的な性格の理論、性格の形成、性格の診断法などについて理解すること。学校現場における、個人差としての性格の概念の意義や利用法、その限界、注意点などを考えてみるのもよい。        |   |    | 1    |
| 学習のメカニズムについて<br>パプロフの古典的条件づけ、スキナーのオペラント条件づけ、社会的学習、洞察による学習など、学習のメカニズムについて他の参考書なども用いて、整理しておくこと。   |   |    | 1    |
| 学ぶ意欲と授業の課程 — 動機づけとさまざまな授業方法—<br>教科書 pp.77-94 を通読し、動機づけの概念、原因帰属などの理論、さまざまな授業方法について理解すること。学校現場において、子どもの動機づけを高める工夫や、効果的な授業方法を自分なりに考えてみるのもよい。 |   |    | 1    |
| 学習の評価 — 教育評価の方法とテスト—<br>教科書 pp.95-104 を通読し、学習の評価の目的、基準などについて理解すること。統計学については基本的な部分はおさえておくこと。学校現場での実際の教育評価の方法や注意点などについて考えてみるのもよい。           |   |    | 1    |

|  |         |
|--|---------|
| <p>集団としての子ども —教育現場の社会心理学—<br/>教科書pp.109-127を通読し、集団行動やリーダーシップなど、社会心理学的な観点からの教育活動について理解すること。学級運営における社会心理学の理論の実際の応用例などを考えてみるのもよい。</p>         | 1       |
| <p>子どもの不適応行動1 —いじめの問題—<br/>教科書pp.131-153を通読し、子どもの心の健康やストレスなどについて理解すること。特に最近問題となっている「いじめ」について、新聞や雑誌、インターネット上にある事例などをもとに問題点や対策などを考察してみる。</p> | 1       |
| <p>子どもの不適応行動2 —不登校、非行などの問題—<br/>「不登校」や「非行」などの問題について、新聞や雑誌、インターネット上にある事例などをもとに問題点や対策を考察してみる。</p>  | 1       |
| <p>子どもの不適応行動3 —現代を生きる子ども—<br/>現代社会を生きる子どもは、それ以前の時代の子どものように異なるのか。発達環境の相違や変化などを考え、それが子どもの発達に与える影響を考察してみる。</p>                                | 1       |
| <p>学校カウンセリングの基礎<br/>教科書pp.154-161を通読し、学校カウンセリングの基礎的な事項について理解すること。相手がいれば、初歩的なカウンセリングの技法について実際に練習してみるのもよい。</p>                               | 1       |
| <p>進路指導と進路選択<br/>教科書pp.162-167を通読し、進路指導や進路選択、職業適性テストなどについて理解すること。自身の進路選択についての経験を客観的に分析してみるのもよい。</p>  | 1       |
| <p>障害のある子どもの理解<br/>教科書pp.173-201を通読し、学校現場で出会う可能性のある各種の障害について理解すること。それぞれの障害のある子どもへの適切な対応について考えてみるのもよい。</p>                                  | 1       |
| レポート作成、添削指導  | 60      |
|  | 計 75    |
|  | 授業単位数 5 |

# 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

|  |  |            |
|--|--|------------|
| 科目名  | 権利擁護と成年後見  |            |
| 担当教員の実務経験  | 社会福祉士、通所介護施設勤務経験有  |            |
| 対象学生   | 心理福祉学科3年   |            |
| 授業時間数・単位数  | 75 コマ  | 5 単位       |
| 授業方法   | 講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [     ]  |            |
| 授業の概要  | <p>日常的に何らかの援助を必要とする人々に接することが多い専門職として、鋭い人権感覚を身につけておくことは重要である。相談援助と法(日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む)との関わり、成年後見制度(後見人等の役割を含む)、日常生活自立支援事業について学修する。そして、社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。</p> |            |
| 授業の到達目標  | 成年後見制度および動向と課題について理解を深め、レポートおよび科目試験合格を目指す。   |            |
| 成績評価方法と基準  | 科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する   |            |
| 準備学習・時間外学習   |  |            |
| 使用教科書・教材・参考書   | 社会福祉士養成講座編集委員会『新社会福祉士養成講座19 権利擁護と成年後見制度』中央法規出版。  |            |
| 授業上の注意点  |  |            |
| <b>授業計画 (内容)</b>   |  | <b>コマ数</b> |
| <p>社会福祉士や精神保健福祉士が成年後見活動を行う上での留意点について、「権利擁護」の視点を学修する。<br/>成年後見制度の概要を理解した上で、特に社会福祉士や精神保健福祉士といったソーシャルワーカーに求められる「身上監護」を軸とした成年後見活動を行う際の留意点を中心に考察する。また、「倫理綱領」等と照らして、権利擁護(アドボカシー)の一環としての成年後見活動とは何かを考察する。</p>  |  | 1          |
| <p>「権利擁護」の具体化としての成年後見制度の位置づけと、ソーシャルワーカーとしての後見活動のあり方を考察する。特に、入口としての「権利擁護相談」においてソーシャルワーカーが果たすべき役割(相談援助や連絡調整の専門職としての役割) ニーズ発見と制度へのつなぎ、権利擁護制度の利用支援とコーディネート、成年後見制度の理念と身上監護の担い手としてのソーシャルワーカーのあり方について理解する。また、権利擁護センター「ばあとなあ」の取り組みや実践内容について学修する。</p> |  | 1          |
| <p>法定後見制度の概要について理解する。<br/>「成年後見の概要」、「保佐の概要」、「補助」の概要を理解する。特に、それぞれの対象者(成年被後見人)「被保佐人」「被補助人」について理解し、具体的な申立ての流れについて学修する。</p>  |  | 1          |
| <p>任意後見制度の概要について理解する。<br/>任意後見契約の締結、任意後見監督人選任の申立て、任意後見契約の効力発生、任意後見人の後見事務、任意後見監督人による任意後見人の監督、任意後見契約の終了の実際について学ぶ。</p>  |  | 1          |
| <p>成年後見人等の義務と責任について理解する。<br/>成年後見業務の特徴を踏まえた上で、善管注意義務、身上配慮義務及び本人の意思尊重義務、居住用不動産の処分、利益相反行為、家庭裁判所との連携、保佐人・補助人の義務と責任について学ぶ。</p>   |  | 1          |
| <p>成年後見制度の最近の動向を把握し、今後の課題を考察する。<br/>成年後見制度の運用状況を理解し、医療行為の同意といった課題、本人死亡後の成年後見人の事務、市町村長申立ての活性化、成年後見人の養成のあり方、後見制度支援信託の導入などについて考察し、「誰でも利用できる制度」として、今後どのように改善していけばよいかを学ぶ。</p>   |  | 1          |
| <p>日常生活自立支援事業の概要について学ぶ。<br/>日常生活自立支援事業の創設の背景を理解した上で、日常生活自立支援事業の仕組みと内容、具体的な活用の仕方について、現状と課題を考察する。</p>  |  | 1          |
| <p>日常生活自立支援事業と成年後見制度との連携のあり方について理解する。<br/>日常生活自立支援事業と成年後見制度のそれぞれの特徴と相違点、日常生活自立支援事業と成年後見制度の利用の考え方を踏まえた上で、両制度の併用などについて考察する。</p>  |  | 1          |

|   |         |
|---|---------|
| <p>権利擁護にかかわる組織・団体について、それぞれの役割や連携の必要性について学ぶ。<br/>特に、家庭裁判所の権限や役割・組織をはじめ、法務局の位置づけや業務内容、市町村の役割と市町村長申立て、社会福祉協議会と権利擁護、児童相談所の役割と児童虐待への対応について理解する。</p>                            | 1       |
| <p>権利擁護に向けた相談援助活動と法の関連を学ぶ。<br/>相談援助活動において想定される法律問題を理解する。そのため、日本国憲法とその基本原理、行政法とは何か、民法における契約の概念や親族法・相続法、その他の社会福祉関連法について理解を深める。</p>  | 1       |
| <p>成年後見制度利用支援事業の概要について理解する。<br/>成年後見制度利用支援事業の変遷、成年後見制度利用支援事業の現状と課題及び留意点、事業の創設の経緯から将来的な展望までを概観する。</p>  | 1       |
| <p>権利擁護にかかわる専門職の役割を理解する。<br/>権利擁護にかかわる専門職の役割例としては、介護保険法と弁護士の役割、権利擁護における司法書士の役割、任意後見契約と公証人の役割、鑑定・診断を行う医師としての役割、権利擁護相談と社会福祉士の役割等を学ぶ。</p>                                    | 1       |
| <p>「身上監護」を軸とした社会福祉士の成年後見活動について学ぶ。<br/>また、社会福祉士の成年後見活動の実際として、「権利擁護相談」のシステムにおける現状と課題、権利擁護・成年後見活動における社会福祉士会の取り組み等についても具体的に理解する。</p>  | 1       |
| <p>対象種別・対象領域に応じた成年後見活動の実際を、事例を通じて实际的に学修する。<br/>具体的には、「認知症を有する者への支援の実際」「消費者被害を受けた者への対応の実際」「障害児・者への支援の実際」「市町村長申立てのケースへの対応の実際」等の事例について、成年後見活動の実際を理解する。</p>                   | 1       |
| <p>対象種別・対象領域に応じた権利擁護活動の実際を、事例を通じて实际的に理解する。<br/>具体的には、「被虐待児への対応の実際」「高齢者虐待への対応の実際」「アルコール等依存症への対応の実際」「非行少年への対応の実際」「ホームレスへの対応の実際」「多問題重複ケースへの対応の実際」等の事例について権利擁護活動の実際を理解する。</p> | 1       |
| レポート作成、添削指導   | 60      |
|   | 計 75    |
|   | 授業単位数 5 |



# 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

|   |  |            |
|---|--|------------|
| 科目名   | 障害者・障害児心理学   |            |
| 担当教員の実務経験   |  |            |
| 対象学生  | 心理福祉学科3年   |            |
| 授業時間数・単位数   | 75 コマ  | 5 単位       |
| 授業方法  | 講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [     ]  |            |
| 授業の概要   | <p>障害者の心理を学ぶことは、障害の種類について理解することから始まる。それは、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、内部障害、知的障害、発達障害、精神障害といったものが挙げられ、それぞれの障害ごとに学修する。また、心理学的視点から見た、それぞれの障害を持つことでの行動パターンや心理特性について学んでいく。障害児・者に関わる専門家にとって、それぞれの障害の原因や症状に関わる、科学的な基礎理解が不可欠である。症状を引き起こすメカニズムや、重症度やその予後などが正確に理解できていなければ、行動を客観的に評価できず、十分な心理的援助が期待できない。すなわち適切な心理的援助をするためにも、生理的・病理的な基本理解が必要であることを認識すべきである。その上で、人間学的視点から、障害児・者としていかに生きるか、その家族としていかに生きるか、それを専門家としてどのように支えるのかについて考察を進め、身体障害、知的障害及び精神障害の概要、障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援について理解する。</p> |            |
| 授業の到達目標   | 身体障害、知的障害及び精神障害の概要、障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援について理解を深め、レポートおよび科目試験合格を目指す。  |            |
| 成績評価方法と基準   | 科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する   |            |
| 準備学習・時間外学習  |  |            |
| 使用教科書・教材・参考書  | 目黒達哉、他『障害者の心理・「こころ」—育ち、成長、かかわり—』学術図書出版社。   |            |
| 授業上の注意点   |  |            |
| <b>授業計画（内容）</b>   |  | <b>コマ数</b> |
| <p>○障害特性を理解することの重要性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害児、障害者の心理を学ぶにあたって</li> <li>・障害をもつこととその心理(本人、家族、社会)</li> <li>・家族や社会が障害の特性を理解することの重要性</li> </ul>   |  | 1          |
| <p>○障害を受容すること(本人の立場から、保護者・家族の立場から)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中途障害者の障害受容過程段階説について(本人が障害を受け入れる初段階について)</li> <li>・障害児の親の心理について(障害のある子を持つ親が辿る心理的プロセスについて)</li> </ul>  |  | 1          |
| <p>○身体障害児・者(運動障害)の心理的特性と援助</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小児脳性マヒの運動障害の機序(脳性マヒの類型、運動障害の特性、重症度の判別、合併する障害など)</li> <li>・筋ジストロフィーにおける運動障害の機序(障害の類型、運動障害の特性、重症度の判別、合併する障害など)</li> <li>・脳血管障害による運動障害、事故による脊髄損傷等の運動障害(障害による運動への影響について)</li> <li>・上記の基礎を学んだ上でそれぞれの障害や類型、重症度などに応じた心理的援助と物理的支援のあり方について</li> </ul> |  | 1          |
| <p>○視覚障害児・者の心理的特性と援助</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障害のメカニズムおよび目の基本構造について</li> <li>・視力と視覚認知について</li> <li>・視覚障害児・者の行動特性および心理特性</li> <li>・視覚障害児への教育的支援                      ・親への支援や理解</li> </ul>   |  | 1          |
| <p>○聴覚障害児・者の心理的特性と援助</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聴覚障害のメカニズムおよび耳の基本構造について</li> <li>・聴覚と聴覚認知について(聞こえの程度、重症度の特定やdB)</li> <li>・聴覚障害児・者の行動特性および心理特性</li> <li>・聴覚障害児への教育的支援</li> <li>・親への支援や理解</li> </ul>   |  | 1          |
| <p>○知的障害児・者の心理的特性と援助</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知的障害児・者の認知特性と行動特性</li> <li>・知的障害の重症度による分類</li> <li>・知的障害に伴う併存障害や合併症</li> <li>・知的障害児への教育的支援</li> <li>・親への支援や理解</li> </ul>   |  | 1          |

|   |         |
|---|---------|
| ○発達障害児 - 者の心理的特性と援助① 広汎性発達障害<br>・自閉症スペクトラム障害の中核症状<br>・幼児期・児童期・青年期・成人期における行動特性<br>・行動の理解と支援<br>・広汎性発達障害児への教育的支援  | 1       |
| ○発達障害児 - 者の心理的特性と援助① 注意欠如多動性障害(ADHD)や学習障害(LD)など<br>・ADHDの中核症状とLDに特徴的な学習の困難性<br>・幼児期・児童期・青年期・成人期における行動特性<br>・行動の理解と支援<br>・ADHD児、LD児および青年期・成人期における教育的支援 | 1       |
| ○精神障害の心理的特性と援助①(統合失調症)<br>・統合失調症の陽性症状と陰性症状について<br>・医学的治療と心理教育について<br>・ソーシャルスキルトレーニング(SST)<br>・青年期・成人期における支援や援助  | 1       |
| ○精神障害の心理的特性と援助②(抑うつ障害と双極性障害)<br>・抑うつ障害と双極性障害に関する基礎理解<br>・双極性及び単極性の行動特性と認知特性について<br>・医学的治療と心理教育について<br>・事例ケース紹介  | 1       |
| ○精神障害の心理的特性と援助③(認知症)<br>・認知症の中核症状と周辺症状について<br>・長谷川式認知スケールと症状の観察<br>・治療と家族支援<br>・事例ケース紹介   | 1       |
| ○心理評価尺度の活用について<br>・WISCおよびWAIS<br>・抑うつ尺度<br>・CBCL(子どもの行動チェックリスト)  | 1       |
| ○障害児への援助と家庭・学校・医療機関との連携<br>・障害のある子どもに支援するケースでは、本人への援助のほか、家族や学校との連携が重要となる。<br>・発達障害者支援法の趣旨<br>・法的・行政的支援とその利用   | 1       |
| ○障害者への援助と家庭・職場・医療機関との連携<br>・障害のある成人に支援するケースでは、家族や医療機関との連携はもちろん、職場での理解も重要になる。<br>・行政機関との連携<br>・精神障害や認知症のケース  | 1       |
| 本科目は内容が豊富であるために、整理すべきことが大量に存在する。最後にまとめを行い、自身の学修ノートにまとめ直す。   | 1       |
| レポート作成、添削指導   | 60      |
|   | 計 75    |
|   | 授業単位数 5 |

# 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

|  |   |            |
|--|---|------------|
| 科目名  | 神経・生理心理学  |            |
| 担当教員の実務経験  |   |            |
| 対象学生   | 心理福祉学科3年  |            |
| 授業時間数・単位数  | 75 コマ ・ 5 単位  |            |
| 授業方法   | 講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [     ]   |            |
| 授業の概要  | 生理心理学は心理学と生理学にまたがる学問領域である。心を直接観察することはできないが、それに関連した生理的活動は観察可能であり、生理心理学においては心理的機能と生理的機能の対応関係が研究されている。この科目では、そのような生理学的変化を支える脳の働きを中心に据えながら、心理的機能と生理的機能の関連性についての知見を学修し、脳神経系の構造及び機能、記憶、感情等の生理学的反応の機序、高次脳機能障害の概要を理解する。 |            |
| 授業の到達目標  | 脳神経系の構造及び機能、記憶、感情等の生理学的反応の機序、高次脳機能障害の概要を理解し、レポートおよび科目試験合格を目指す。  |            |
| 成績評価方法と基準  | 科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する  |            |
| 準備学習・時間外学習   |   |            |
| 使用教科書・教材・参考書   | 岡田隆、他『生理心理学—脳のはたらきから見た心の世界』サイエンス社。  |            |
| 授業上の注意点  |   |            |
| <b>授業計画（内容）</b>  |   | <b>コマ数</b> |
| 生理心理学とは何か①<br>生理心理学とは何を対象とした、どのような学問なのかを理解する。テキスト第0章参照。  | 1   |            |
| 生理心理学とは何か②<br>4つの研究方法について、それぞれ具体例をみながら理解する。テキストpp.6-7、pp.202-206、pp.212-213参照。                     | 1   |            |
| 人間の脳の構造について①<br>脳を構成する神経細胞の構造と、それらの間の情報伝達について理解する。テキストpp.12-13、pp.18-25、第2章参照。                     | 1   |            |
| 人間の脳の構造について②<br>脳の基本的な構造について理解する。テキストpp.14-17、p.153、p.157参照。                                       | 1   |            |
| 生理心理学の観点からみた向精神薬の働きについて①<br>向精神薬とは何か、また、薬物のメカニズムについてシナプスで何が起きているのかを理解する。テキストp.18、pp.38-39、p.137参照。 | 1   |            |
| 生理心理学の観点からみた向精神薬の働きについて②<br>うつ病に関する生理心理学的理論と抗うつ薬による治療について理解する。テキストpp.142-145参照。                    | 1   |            |
| 生理心理学の観点からみた向精神薬の働きについて③<br>統合失調症に関する生理心理学的理論と抗うつ薬による治療について理解する。テキストpp.138-141参照。                  | 1   |            |
| 学習・記憶に関する神経生理学的背景について①<br>脳の可塑性および長期増強について理解し、記憶障害と脳部位の関連を学ぶ。テキスト第4章参照。                            | 1   |            |
| 学習・記憶に関する神経生理学的背景について②<br>非連合学習と連合学習の神経機構について理解する。テキスト第5章参照。                                       | 1   |            |
| 視知覚の神経機構について①<br>光情報が網膜で電気信号に変換される流れについて学び、網膜以降の2つの視覚経路について理解する。テキストpp.46-55参照。                    | 1   |            |
| 視知覚の神経機構について②<br>視知覚障害と脳部位の関連を学ぶ。テキストpp.156-161、pp.198-199、pp.210-211参照。                           | 1   |            |

|   |         |
|---|---------|
| <p>情動の生理機構と情動が精神的・身体的健康に及ぼす影響について①</p> <p>情動の生理機構に関する説を学び、情動の持つ3つの側面(情動体験、情動表出、情動活動)を理解する。テキストpp.100-111参照。</p>   | 1       |
| <p>情動の生理機構と情動が精神的・身体的健康に及ぼす影響について②</p> <p>情動が精神的・身体的健康に及ぼす影響について、特にストレスとHPA 軸との関連について理解する。テキストpp.112-115参照。</p>   | 1       |
| <p>心理・精神の疾患と脳機能について①</p> <p>不安障害、ADHD、自閉症(広汎性発達障害)、PTSD 等について、その病態と脳機能との関連を理解する。テキストp.149、pp.212-213、pp.214-216、p.215参照。</p>  | 1       |
| <p>心理・精神の疾患と脳機能について②</p> <p>失語症、左半側無視、睡眠障害、パーキンソン病、アルツハイマー病等について、その病態と脳機能との関連を学び、神経心理学的リハビリテーションについて理解する。</p> <p>テキストp.155、pp.160 -161、第10章、pp.216 -217、pp.218-222参照。</p> | 1       |
| レポート作成、添削指導   | 60      |
|   | 計 75    |
|   | 授業単位数 5 |